

小学六年

国語

解答と解説

1

問十			
ば	田	で	サ
っ	セ	考	ツ
て	ン	え	カ
み	パ	て	ー
よ	イ	決	部
う	と	め	に
と	い	た	未
い	っ	通	練
う	し	り	は
気	よ	美	あ
持	に	術	る
ち	一	部	が
。	年	で	、
	が	入	自
	ん	木	分

33
34
35
36

問七
が
ん
ば
っ
問八
エ
問九
ウ

30

31

32

問三
ウ
問四
エ
問五
残
業
問六
イ

26

27

28

29

問一
①
ア
⑧
イ
問二
i
オ
ii
ウ
iii
ア

21

22

23

24

25

【解説】

① ひとつみくの「空へ」(小峰書店)から出題しました。

小学生の時に父を亡くした中学一年生の陽介は、母(かあちゃん)、妹の陽菜を自分が守りたいと思う一方で、二人に比べ自分だけが前を向いて生きられていないことに気づきます。どのような生き方をするにせよ、自分で選ぶことの大切さを母から説かれ、少しずつ変わっていく陽介の気持ちに注目しながら読みましよう。

問一 A2 知識 関係づけ

① 「表情が曇った」とは、「恐れや悲しみ、違和感などが原因で顔色が暗くなる様子」を表す言葉です。「事故の一報を聞き、それまでよくしゃべっていた彼の表情が曇った」のように使われます。

⑧ 「まじまじと」とは、「目をそらさずにしつかり見つめる様子」を表す言葉です。「彼は私の顔をまじまじと見た」のように使われます。

問二 A2 関係づけ 知識

i サッカーの試合に誘ったあつちゃんに、くわしい事情を言わずに断りを入れている場面です。「わりい」という言葉は「せっかく誘ってくれたのに断つてごめん」という意味ですが、くわしい事情を説明せずあつちゃんの気を悪くさせていることから、歯切れの悪い言い方をしていると考えられます。したがって「ボソリと」が入ります。

ii 陽菜は迎えに来た陽介に対して自分の言いたいことだけを言ってしまうとさつきと部屋の中に入ってしまった。あつさりした陽菜の態度に合わせて「ぼつと」が入ります。

iii この場面では、陽介が入木田センパイに絵筆で頬に絵の具をつけられています。絵の具が頬につく様子に合わせて「ぺちやつと」が入ります。

問三 B1 理由 比較

登場人物の行動について理由を問う問題です。行動の理由を考える際は、行動をとったときの登場人物の心情を最初におさえるようにしましょう。

i 五行後、九行後にかけて、陽介が自分の気持ちを語っています。それは、父を亡くした今の状況であつちゃんに同情されたり気まずい思いをさせたりしたくないという気持ちです。十行後の「だから、本当のことは言えなかった」に着目できればすんなり理由をおさえられるでしょう。ア「中野と一緒(いっしょ)にサッカーを観に行くのはイヤだ」、イ「陽菜にどんな文句を言われるか分からない」、エ「陽菜と二人で行きたい」がそれぞれ誤っています。

問四 B1 具体 抽象 比較

線③の十行前にある「もう……イヤだ」から——線③までの間に陽介の気持ちが変わってまっています。父が亡くなった今、自分が母と妹を守りたいと思っていること、現実には母と妹に比べて自分だけが前を向けていないことを陽介は「イヤだ」と考えているのです。ア「二人がいなければ生活していけない」、イ「二人のためにあげられることが何もない」、ウ「陽介

の苦勞や気づかずに目を向けず」、がそれぞれ誤っています。

問五 **B1** 関係つけ

かあちゃんに対して、陽介は「④」なんて、できないって言えばいいじゃん」と言っています。ここから、④にはかあちゃんがこれからやろうとしていることが入ることが分かります。会話の中でかあちゃんは「だからみんなと同じように残業もする。そのうち資格も取る」と言っており、次の文で「資格なんてどーでもいいじゃん」と言っていることと合わせると、④には「残業」が入ることが分かります。

問六 **B1** 関係つけ 比較

かあちゃんは自分の話に反発する陽介に対して、いいとか悪いとかではなく、これから我が家はそういう風に考えてやっていく、という宣言をしています。とうちゃんが亡くなって今まで通りにはいかなけれど、与えられた状況を受け入れて過ごすのではなく自分たちで生活の仕方を選んでいくのだ、というかあちゃんの意志を読み取りましょう。したがって、「これからうちの」を自分たちで選び取るのだという意味、あるいは状況をただ受け入れるわけではない、という内容の表現が入ります。

問七 **B1** 具体・抽象

引き続き、かあちゃんと陽介の会話に注目していきます。「かあちゃんを選んだもの」とは何かという設問ですから、かあちゃんの内容で「選ぶ」という言葉の周辺にあるもの、という意味で本文を読み直しましょう。④の六行前に「がんばって働いて、三人で暮らす」という表現が見つかります。

問八 **B1** 理由 比較

線⑦直後に「行けばまた校庭をながめたくなくなってしまふ」とあることに注目しましょう。校庭から見える景色の中に、陽介が「見たくない」と思うものがあるということです。iii 二行前にあるように、美術室から見える校庭では、サッカー部が練習をしているのが見えます。陽介はサッカー部への未練が断ち切れていませんから、練習が見える放課後の美術室に行きたくないと感じてしまうのです。

問九 **B1** 具体・抽象 比較

カタカナ表記は、「外来語であること」「擬態語・擬音語であること」「未知の内容でありなじみがないこと」などを示す際に使われます。ここでは、入木田センパイの言った「くちば色」という色になじみがなくとまどっている陽介の様子が強調されています。ア「美術の知識をひけらかそうとする」、イ「入木田センパイに陽介が腹を立てる」、エ「驚きながらも前向きな気持ちに変わっていく」がそれぞれ誤っています。

問十 **B2** 推論 具体・抽象

「校庭から聞こえるボールの音」はサッカーへの未練、「入木田センパイの鼻歌」は、美術部でがんばってみようかな、という気持ちを表しています。これらがまざりあったということなので、二つの気持ちにうまく折り合いがついたということが表されています。かあちゃんとの話でも出てきた「自分で決めた」ということは陽介にとって大切なポイントなので、これも盛りこんで解答を作りましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解

とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

2 池谷裕二「できない脳ほど自信過剰 パテカトルの万能薬」

(朝日新聞出版) から出題しました。

人間が人工知能を作ったきつかけや、今後人工知能とどのようにつき合っていくべきかということについて、「共存」をキーワードに論じた文章です。

問一 **B1** 置換 比較

指示語の内容を把握する問題です。指示語をふくむ一文を全体でとらえ、指示語より前の部分から指示内容を探しましょう。また、解答として選んだ選択肢を指示語と入れかえて読み、意味が通るかどうかが確認しておくことも大切です。一文の内容から、「こうした傾向」はヒトが勘違いの結果失策を犯したことを指していると分かります。失策を意識して前を探すと、自分たちが生み出したコンピュータの計算や記憶の能力に嫉妬して対戦しようとする様子を指していることが分かります。したがって、イが正解となります。

問二 **B1** 関係づけ 比較

接続語を選ぶ問題です。前後の内容がどういう関係でつながっているかを確認し、それに合う接続語を選びましょう。

1 直前の段落では、人間がチンパンジーとの生物間の比較を通じて、「人間らしさ」を「創造、芸術、直観、気遣い」だと考えていたことが書かれています。これに対して直後の段落

では、現在比較すべき相手にチンパンジーだけでなく人工知能も入って来ていることが書かれています。したがって、ウ「しかし」が入ります。

2 直前には、最近の人工知能に「創造性」が芽生えてきていることが書かれています。また、直後には文章ならばすでに上手に書けるという、「人工知能の創造性」の具体例が書かれています。したがって、エ「たとえば」が入ります。

3 直前には将棋のプロの公式戦で出る新しい手のほとんどはコンピュータソフトから得たものであることが書かれています。これに対して直後には「プロ棋士が人工知能に『教えを請うている』と書かれています。同じ内容を言い換えていますから、ア「つまり」が入ります。

問三 **B1** 関係づけ

②に続く部分をおさえると、②にはチンパンジーにとって難しいが人工知能にとってはそれほど難しくないことが入ると分かります。これはそのまま、「人間らしさ」を分けるものとしてチンパンジーと人間の比較に使われていた基準です。——線①をふくむ段落に「創造、芸術、直観、気遣い」という内容が具体的に書かれています。

問四 **B1** 具体・抽象 比較

新聞記事と詩は、ともに「人工知能の創造性」を表すものです。両者の違いは新聞記事と比べて詩には芸術的な側面があるということと、元になる素材がない状態から作品を作る必要があることでしょう。以上のことから、エが正解となります。ア「何でもやってみよう」、イ「精密に再現する」、ウ「芸術に取

り組む必要はなくなる」がそれぞれ誤っています。

問五 **B1** 関係つけ

「次のように」とあることから次の段落を読むと、人工知能が人間の「了見りょうけんが狭いせま」感覚を見下し、人間の快感ルールに則したがれば簡単に人間が喜ぶような曲くらいできるのだという内容が書かれています。人工知能が人間を見下しているというニュアンスをもとに選択肢を検討すると、ウ「挑発的ちょうはつ」がふさわしいことが分かります。

問六 **A2** 知識 関係つけ

この段落では、人の悩みを聞くカウンセラーの世界でさえ、人工知能が活躍かつやくを始めていることが書かれています。一部の利用者から「根気よく耳を傾けてくれる」「人工知能が相手ならば心置きなくすべてを打ち明けられる」と評価されているのは、人工カウンセラーに利用者の欲求をうまく察知して対応する力があるからでしょう。以上のことから、ア「痒いかゆところ」に手が届く」が正解となります。

問七 **B1** 推論 具体・抽象

同じ段落内で、筆者は——線⑥の内容を「人工知能を敵視する誤った姿勢」と批判しています。本文全体を通して筆者は人工知能との「共存」を訴えています。仕事の件についても、なくなる仕事がある一方で必ず新たな雇用が生まれるはずだから、それに転職することができると述べています。以上から、エが正解となります。ア「簡単には仕事を奪はられないようにすれば」、イ「すぐに仕事を取りもどすことができる」、ウ「あら

ゆる点で人間よりすぐれている」、がそれぞれ誤っています。

問八 **B1** 具体・抽象

——線⑦直後には、「時代相応の対応」の具体例として、将棋将や囲碁の棋士たちがコンピュータソフトを使って新しい手を学習するということが書かれています。つまり、人工知能を「自分たちの仕事を奪うライバル」としてではなく、「仕事をするうえでたよりになる相棒」として考えるということが「時代相応の対応」になってくるわけです。二つ後の段落で筆者は「共存」の必要性を指摘ししており、今後の方向性として「各個人が人工知能と独自にタッグを組む」ことを予測しています。これを「時代相応の対応」の正体だと考えることができます。

問九 **B1** 理由 比較

——線⑧直前の「だからこそ」に注目します。この段落では、人工知能が人間にとって「心強い味方」であることと、「自分を見つめ直す契機けいきを与える教示的な存在」であることが説明されています。これらの内容が過不足なくふくまれるウが正解となります。ア「人間自身の能力を高めてくれる」、イ「仕事を奪い合うよきライバル」、エ「不得意な側面を補い続けてくれる」、がそれぞれ誤っています。

問十 **B1** 関係つけ

抜けている文をもとにもどす問題です。抜けている文そのものから前後内容につながるヒントを引き出したうえで、そのような内容が書かれている場所を本文中から探しましょう。「いま直面している状況」「これに似ている」という内容から、「か

つて現在と同じような状況があった」ことが書かれている部分の後に抜けている文が入ると考えられます。

——線⑥の三行後から始まる段落に、明治維新いしんの時に農民から多くの人々が転職したことが書かれており、これが今後人工知能の発達によって新しく生まれた雇用に転職する人が出てくることと重ね合わせられています。したがって、この後に抜けている文が入ります。

問十一 B1 具体・抽象 比較

本文の内容と合うものを選ぶ問題です。選択肢だけを読んで正誤の判断をすることなく、必ず本文と照らし合わせて考えるようにしましょう。ア「苦手なものを練習する手段として」、ウ「人工知能を用いなければ」、エ「冷静に状況を受け入れる」がそれぞれ誤っています。また、イに書かれている内容は、

② 前後の内容と合っています。